

**学 会 名**

学会名 第60回日本リハビリテーション医学会学術集会  
(令和5年6月29日～7月2日)

**研究テーマ**

回復期リハビリテーション病棟においてCOVID-19クラスター発生中にリハビリテーション介入を止めなかった効果

**病 院 名**

医療法人社団健育会 ねりま健育会病院

**演 者**

〇二瓶太志, 大村優慈<sup>1)</sup>, 酒向正春

<sup>1)</sup>湘南医療大学 保健医療学部

**概 要****【目的】**

回復期リハビリテーション病棟において、COVID-19クラスター発生中にリハビリテーション介入を止めなかったことが病棟ADLに与える効果を明らかにすること。

**【方法】**

回復期リハビリテーション病棟入院患者を対象に、リハビリテーション医療を止めた期間のある2021年1-3月を第2クラスター期（80名，79歳±15歳，クラスター期間52日間：1/17～3/9，リハビリテーション医療を止めた日数29日間，4.0±3.4単位/日），リハビリテーション医療を止めなかった2022年7-9月を第3クラスター期（76名，79歳±13歳，クラスター期間32日間：7/29～8/29，リハビリテーション医療を止めた日数0日，5.8±2.1単位/日）とし，各期で月毎の患者の運動FIMと認知FIMの変化を比較した。

**【結果】**

第2クラスター期では，運動FIMは1月47.2±23.9，2月49.3±26.3，3月50.3±26.1，認知FIMは1月18.5±9.5，2月19.1±10.0，3月19.2±9.6であり，1月と2月，2月と3月，1月と3月で有意差を認めなかった。第3クラスター期では，運動FIMは7月46.0±23.7，8月55.6±24.3，9月60.9±24.9，認知FIMは7月19.2±9.5，8月21.4±9.4，9月22.7±9.4であり，7月と8月，8月と9月，7月と9月でいずれも有意に向上していた。

**【考察】**

第2クラスター期と比較し，第3クラスター期は期間中リハビリテーション医療を止めなかったため，廃用症候群が予防でき，FIMが向上したと考えられた。クラスターを短期間で終息できたことも有効と考えられ，COVID-19クラスター発生時は感染制御とリハビリテーション医療の両立を図っていくことの重要性が示唆された。